

## インターネットガバナンス 関連動向

## IGF 2024参加報告

2024年12月15日(日)から19日(木)までサウジアラビアの首都リヤドで開催された、第19回インターネットガバナンスフォーラム(IGF 2024)について報告します。

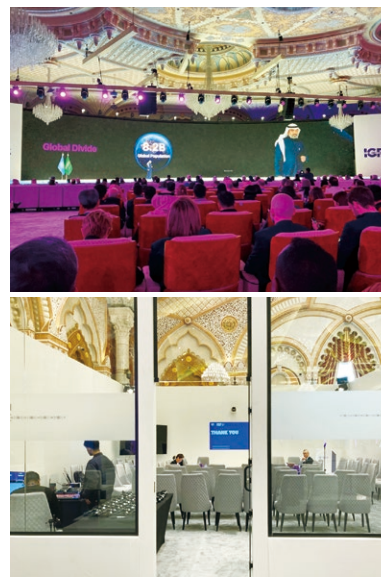
## 開催国および会場

今回の開催地であるリヤドは、とにかく広大に感じられる都市で、空港から市内に向かう途中には大学があり、大学用の鉄道駅2駅とは別に、学内の移動用の鉄道路線がありました。あちこちで建設工事現場やクレーンが目立ち、建設ラッシュという感じでした。宿舎から会場に向かう道路も、信号のある一般道で最高速度80km/hとなっており、歩行や自転車での移動はあまり想定されていないようで、筆者が通行した区域では交差点で歩行者用信号のあるところは見かけませんでした。

会場であるKing Abdulaziz International Conference Centerは、写真の通り、会議場というよりは宮殿と言った方が適切な作りで、豪華絢爛な建物でした。



会議場はメイン会場として巨大な部屋が2部屋用意されており、一つは部屋丸ごとがメインセッションなどに使われ、もう一つは中央にブースとステージ・客席などが並び、周囲に計11のワークショップなど向けの部屋が取り囲む作りでした。ワークショップ用の各部屋は天井がないため同時通訳用のレシーバーを着用して登壇者の声を聞くようになっていました。Lightning Talkを除くほぼすべてのセッションは遠隔からも参加できましたが、映像・音響関係の不具合は結構あったようです。



## 参加状況

IGF 2024へは、11,853名の参加登録がありました。実際の参加者数は現地会場が144ヶ国/地域より7,194名、オンライン参加者が2,800名以上となりました<sup>\*1</sup>。参加者の内訳は、次の通りです。

- ステークホルダー別：政府48%、市民社会11%、民間セクター25%、技術コミュニティ7%、報道機関1%、子ども1%、政府間機関7%
- 地域別：アフリカ11%、アジア太平洋50%、東ヨーロッパ4%、ラテンアメリカおよびカリブ海 (GRULAC) 2%、西欧・北米・豪州その他 (WEOG) 16%、政府間機関17%

IGF 2023京都に比べ、現地参加者数は900名ほど増えていますが、参加者の属する国/地域数は34減っています。ステークホルダー別では政府が32%増えたのに対し、市民社会は13%減、民間セクターは12%減、技術コミュニティは7%減となっています。地域別ではアフリカが3%増え、GRULACが5%減となっています。参加者の男女比は男性68%、女性31%、その他1%以下となっています。30歳以下のユース参加者の割合は23%でした。

## テーマおよび主なセッション

全体テーマは、Building Our Multistakeholder Digital Future (マルチステークホルダーによるデジタルの未来の構築)です。その下に以下の四つのテーマが設定されました。

- デジタル時代における人権と包摂の推進
- 平和、開発、持続可能性へのデジタルの貢献を強化
- デジタル空間におけるイノベーションの活用とリスクのバランス

- 我々が望むインターネットのためのデジタルガバナンスの改善

セッション数は合計307で、ワークショップ91、Day 0セッション51、ライトニングトーク46、オープンフォーラム45、DC (Dynamic Coalition) セッションが15、Launches and Awardsが11、Networking Sessionsが11などとなっています。以下、その中から四つのセッションを紹介します。

## 開会式

開会式では、国連事務総長のアントニオ・グテーレス氏によるビデオメッセージ<sup>※2</sup>で、デジタル技術が人類の進歩を加速させる大きな可能性を強調した一方、この可能性をすべての人々に開放するには、ガバナンスに対するガードレールと協調的なアプローチが必要であること、さらに、グローバルデジタルコンパクト(GDC)を世界が実施するにあたって、IGFにおける取り組みと参加者の声は極めて重要である旨を述べました。

次に、国連経済社会問題担当事務次長リ・ジュンファ氏<sup>※3</sup>が、デジタルガバナンスがグローバルな課題に取り組む上で重要な役割を果たしており、デジタル技術を社会の利益に役立てる必要性、デジタル格差の解消、国際協力の強化、および2030年持続可能な開発目標(SDGs)の実施の支援を呼びかけました。

開催国サウジアラビアの通信・情報技術大臣アブドゥラ・アルスワハ氏<sup>※4</sup>は、ステージ全体を使った流暢な英語でのプレゼンテーションを行い、南北格差、人工知能(AI)時代における格差、サウジアラビア

が国連機関と協力してデジタルとAIへの公平なアクセスを促進していることなどに言及し、多国間での協力と強力なガバナンスの枠組みの確立を求め、AI技術がスケーラブルで持続可能かつ国家主権を尊重するものであるべきと主張しました。大臣はまたサウジアラビアがデジタルおよびAIインフラストラクチャーの発展において果たしている役割を強調し、グローバルな格差解消のための包括的なAIガバナンスモデルとAIインフラストラクチャー構築に向けた取り組みを(開会式での投影では「リヤドAI宣言」として)<sup>※5</sup>発表しました。



## 未来サミットからWSIS+20(世界情報社会サミット20周年評価)まで

本ハイレベルセッションは12月16日に開催され、より包括的で持続可能なデジタルの未来を実現するための行動を促すため、国際電気通信連合(ITU)、国連教育科学文化機関(UNESCO)、国連貿易開発会議(UNCTAD)をはじめとする国連機関からの代表が登壇し、次のような議論が行われました。

## 1. 2005年から2024年までのWSISの成果

- マルチステークホルダーアプローチの確立により、グローバルなデジタル協力の枠組みが形成
- インターネット利用者が2005年の10億人から、現在は55億人以上へ増加
- 持続可能な開発目標(SDGs)と連携したデジタル政策・アクションラインが策定された
- デジタル包摂の促進により、インターネット未接続地域の接続拡大やデジタルリテラシー向上が進展した

## 2. 未解決の課題

- デジタル格差:世界の約3分の1の人口がまだオフラインで、特

に農村地域や開発途上国で深刻

- 誤情報・セキュリティ:AI、ディープフェイク、未検証情報の拡散に対する規制強化が必要
- ジェンダー格差:女性のデジタル技術分野での参画率が低い
- 倫理的課題:AIやデジタルプラットフォームの人権尊重、アクセシビリティ、データ保護の確保

## 3. WSIS+20以降の優先課題

- 普遍的で有意義な接続の実現:インターネットアクセスを単に提供するだけでなく、安全で、使いやすく、経済的にも持続可能な形で提供することが重要
- 信頼性とセキュリティの確保:AIガバナンス、サイバーセキュリティ、倫理的なAI開発を強化
- 環境持続性:データセンターの二酸化炭素排出削減や電子廃棄物管理の改善が必要
- 能力開発:デジタルスキル、AIリテラシー、教育システムの整備
- グローバルな連携強化:WSIS+20とGDCの枠組みを統合し、より包括的なデジタルガバナンスの実現を目指す

## 過去を振り返り、未来へ前進:インターネットガバナンスにおけるIGFの役割を強化し続けるには

最終日12月19日に開催された本メインセッションでは、WSIS+20とGDCの実施という文脈において、IGFの役割と将来に焦点が当てられました。

IGFの将来の役割と改善の可能性についての議論では、IGFはGDCの実施とWSIS+20レビュープロセスへの貢献において重要な役割を果たすべきであるという点で、賛同する意見が多かったように思います。IGFがより具体的な成果と実行可能な提言を生み出す必要があるという意見があった一方、IGFは強力な根拠に基づく提言を行うことができるが、その主な強みは問題や疑問を提起し、それらをどこで取り上げるべきかを提案することにあるとの意見もあり、IGFの役割に関するIGFの場に限りず行われている議論を浮き彫りにして

いると考えられます。

IGFの包摂性を向上させること、特にこれまで十分に代表されてこなかった地域やコミュニティの包摂性を向上させることについても、主要な論点となりました。特にグローバルサウスからの意見を取り入れ、包摂性を向上させる必要性や、若者や疎外されたコミュニティをより多く取り込む必要性が訴えられました。また、インターネットガバナンスに関する議論のローカライズや草の根レベルの参加の推進における、国別・地域別IGF(NRIs)の役割について強調されました。

参加者からは、イノベーションと包摂性およびプライバシーの懸念のバランスを取る必要性、およびAIなどの新興技術とインターネットが

バナンスへの影響についても触れられました。登壇者は、デジタルイノベーションの恩恵がすべての人々に確実に届くようにしながら、これらの新たな課題に対処する上でIGFが重要な役割を果たすべきであるという点で意見が一致しました。

マルチステークホルダープロセスと多国間プロセスは、単に握手するだけではなく、「手をつないで一緒に踊る」必要があるという興味深い比喩が示され、より深い協力と統合の必要性が訴えられました。

## NRIメインセッション:マルチステークホルダーによるデジタルガバナンスにおけるNRIの発展する役割

最終日12月19日に開催された本セッションでは、中東・北アフリカ、欧州、アフリカ、アジア太平洋、北米、ラテンアメリカ・カリブ海の各地域での取り組みがまず紹介され、以下の課題と機会が指摘されました。

- 財政的持続可能性: NRIの活動を維持する上で大きな財政的障害があること
- ステークホルダーの関与: 政府を関与させることの難しさ
- 地域特有の課題: 災害対応政策枠組みの必要性、若者の協働を促進することの難しさ
- 成果の追跡: NRI会議の成果を追跡し、その影響力を示すことの重要性
- 多言語主義: インターネットガバナンスの議論における複数の言語への対応の難しさ

次に、さまざまな地域ごとの視点が示された後、次の点が主に議論されました。

- 包摂性と能力開発: 若者、女性、周縁化されたコミュニティ、政策立案者の積極的な参加を確保する必要がある
- NRIの持続可能性: 多くのNRIは資金不足に直面しており、政府、民間企業、国際機関からの長期的な支援が必要
- マルチステークホルダーガバナンスの強化: 政府がNRIに積極的に関与し、政策決定に反映することが重要
- IGFとWSIS+20の未来: IGFの恒久的な権限付与、NRIの正式な認知、グローバルなインターネットガバナンスへの積極的な関与を求める声が多かった

結論として、インターネットガバナンスのエコシステムにおけるNRIの重要性、および地域的な視点のグローバルな議論への導入、能力の構築、政策への提言におけるNRIの重要性が強調されました。特に財政的な持続可能性やステークホルダーの関与という点において課題は残っているものの、マルチステークホルダーモデルの価値と、インターネットガバナンスの将来のためにこのモデルを強化し進化させる必要性についての意見が大勢を占めていました。

## 今後の展望

国連IGF事務局が編纂したりヤドIGFメッセージ案<sup>※6</sup>では、すべてのテーマについて、最新の議論の内容から見解がまとめられています。テーマの一つである「我々が望むインターネット (Internet We Want, IWW) のためのデジタルガバナンスの改善」から一部を以下の通り取り上げます。

### 1. グローバルなデジタルガバナンスと協調

- OGDCは、単なるビジョン文書から実行可能なフレームワークへと進化し、WSIS、IGF、STIフォーラム<sup>※7</sup>などの既存の枠組みと連携し、断片化を防ぎ、政策の一貫性を確保する必要がある
- IGFは重要な議題設定の場であり、AI、サイバーセキュリティ、デジタル包摂といった重要な課題を、国際交渉に先駆けて議論する場として活用すべき
- WSIS+20レビューは、持続可能な開発目標 (SDGs) などのグローバルな優先課題と地域・国家レベルのデジタルガバナンスを結びつける機会となる
- 学術研究は、マルチステークホルダーアプローチの進化に貢献し、多様な政策環境に適応可能なガバナンスモデルの発展を支える

### 2. 包括性の強化とデジタル格差の解消

- グローバルなデジタル格差を解消するための緊急対策が求められる。特に発展途上国では、インフラ、スキル、デジタルリテラシーへの投資が必要
- ジェンダー格差を解消し、デジタル経済への平等な参加を確保

することが重要。特に、AIスキルやコンピュータリソースへのアクセス格差は、国際協力を通じて是正すべき

- 若者をデジタルガバナンスの利害関係者として認識することが不可欠。GDCの協議プロセスから学び、地域や多様なステークホルダーの参加を促進することで、より民主的で代表性のある政策形成を実現

### 3. サイバーセキュリティと回復力の強化

- 重要インフラ (CI) は、海底ケーブルやクラウドサービスを標的としたサイバー攻撃の脅威に直面
- 国境を越えた重要インフラの保護には、CERT (コンピュータ緊急対応チーム) 間の協力強化、ICT危機時の効果的な情報共有、マルチステークホルダーによる包括的な対応が必要

2025年の国連総会によるWSIS+20評価に向けて、IGFの権限および継続についても検討されることになりました。先に述べたように、IGF 2024会期中に開催された多くのセッションでは、これらのプロセスに言及し、また関連文書に取り上げられている問題を議論しました。

2025年9月の国連総会でWSIS+20評価に関する決議が行えるようにするためと思われますが、IGF 2025は6月という通常より半年近く早い時期の開催となります。これまでより準備期間が短い中でさまざまな議論が行われることになり、2025年前半は多くの関係者にとって忙しい時期となることでしょう。

※1 Draft IGF 2024 Summary Report [https://intgovforum.org/en/filedepot\\_download/305/28529](https://intgovforum.org/en/filedepot_download/305/28529)

※2 <https://youtu.be/rA7i300cmME?si=AZF340YU5vxcd0h1&t=630>

※3 <https://www.un.org/en/desa/page/mr-li-junhua-under-secretary-general>

※4 <https://mciit.gov.sa/en/minister-mciit>

※5 会期中にIGF開催国のWebサイトで、AI以外の内容も記載された「リヤド宣言」として公表されています。

※6 [https://intgovforum.org/en/filedepot\\_download/305/28526](https://intgovforum.org/en/filedepot_download/305/28526)

※7 SDGsのための科学技術イノベーション(STI)に関するマルチステークホルダーフォーラム <https://sdgs.un.org/tfm/sti-forum>